

源氏箒木卷は作りたるなり、其原伏屋は信濃國にて、美濃の國界なり、遠くみれば、箒をたてたる如く高く見え、近くよりて見れば、何の木ともわかず、さればありとは見えて、あはぬ由にいへり我^{〇齋藤}幼き頃、三河國矢矧の大橋の上よりみれば、西の方に大きな箒木の如き木あり、里人の云く、彼は伊勢國朝熊山の木なりといひ傳へたりとぞ、幼き頃に見聞きして、今に忘れず、いとよく晴れたる日ならでは見え、街道行程三十餘里あり、むかし景行天皇の御代に、筑後の御木郷に大歴木^{クヌキ}ありて、朝日には肥前の杵島をかくし、夕日には肥後の阿蘇山を隠し、よし書紀にあり、仁徳天皇の御代に、兔寸川の西に大木ありて、朝には淡路島に及び、夕日には高安山を越ゆるよし古事記にあり、又肥前佐賀郡にも大樟樹ありて、朝日には杵島、蒲川山をおほひ、夕日には養父郡草横山をおほひしよし風土記にあり、播磨國明石にも、井口に大楠ありて、朝日には淡路島をかくし、夕日には大倭島根をかくすとも風土記にあり、近江國栗太郡に大柞木^{クラノキ}ありて、朝日には丹波國にさし、夕日には伊勢國にさすと今昔物語にあり、さる事なきにあらず、我若かりしころ、紀伊國熊野に大榎ありて、二またに諸木竹など數十株生ひ出でたるよし、紀の殿より御申し届になりて、繪圖さへ來たるを見て、人々普くゑる所なり、

〔玄同放言〕^二飛驒^三。枝。

飛驒國大野郡に三枝郷あり、^{三枝みつえ}郷内に五ヶ村あり、その三ヶ村を、上切、中切、下切と唱ふ中切村に^{高山より}巨樹あり、程遠き處といふとも、この樹の見えざるはなし、さる古木なれども、今なほこれを伐ることを許さず、もし人ありて、斧を用ふれば、血流れ出づ、且祟ありといひもて傳へて、その落葉だも拾ふことなし、これを犯せば、かならず瘡を患むといふ、唯樹下に起臥する乞兒等は、その枯枝を折りもしつ、落葉をあつめて、焚くことあれども、露ばかりも祟をうけず、渠等はよるべなきものとして、神の許させ給ふにや、この樹の爲に日を覆はれて、田圃の爲には不便